

熱中症に関する取組について

環境省

1. 暑さ指数(WBGT)の情報提供について

環境省熱中症予防情報サイト (<https://www.wbgt.env.go.jp/>) において、暑さ指数(WBGT)の予測値及び実況値について、4月17日(金)から10月30日(金)までの間、ウェブサイトでの情報提供、電子情報提供サービス、メール配信サービス等を実施する。

(1) 令和2年度主な提供情報

①全国840地点の暑さ指数(WBGT)の予測値及び実況値

○予測値：当日、翌日、翌々日(深夜0時まで)の3時間毎(3時、6時、9時…)の予測値

○実況値：現在の暑さ指数(WBGT)の実況推定値(実測地点においては実測値)

*暑さ指数(WBGT)の実測地点：札幌、仙台、新潟、東京、名古屋、大阪、広島、高知、福岡、鹿児島、那覇(全国11地点)

②暑さ指数(WBGT)の個人向けメール配信サービス(無料)の提供

③暑さ指数(WBGT)と熱中症救急搬送人員数の関係について(週報)

④CSV形式による暑さ指数(WBGT)数値データの提供

⑤「まちなかの暑さ対策ガイドライン 改訂版(平成30年3月環境省)」など暑熱対策技術の紹介

⑥「熱中症環境保健マニュアル 2018(平成30年3月環境省)」など熱中症対策に関する普及啓発資料

⑦熱中症に関する関係省庁の取組

(2) 環境省熱中症予防情報サイトの利用状況等

1) 環境省熱中症予防情報サイトのアクセス件数

令和元年度のアクセス件数は約2,900万件。(運営初年度は約100万件)

期間	件数
平成27年5月13日～10月16日	12,701,487件
平成28年4月25日～10月14日	11,540,347件
平成29年4月20日～9月29日	12,515,265件
平成30年4月20日～10月8日	30,478,165件
平成31年4月19日～10月14日	29,010,914件

2) 個人向けメール配信サービスの利用状況について

令和元年度の個人向けメール配信サービスの利用者数は約26,000件。

(3) その他

平成 30 年度から暑さ指数 (WBGT) の実測地点を追加 (高知、那覇)。

平成 31 年度から色のバリアフリーに配慮し、暑さ指数 (WBGT) の文字色と背景色の組み合わせやコントラストを改善。

令和 2 年度から一部コンテンツは英語だけでなく中国語 (繁体字・簡体字)、韓国語にも対応。

2. 熱中症対策に係る普及啓発資料の作成・配布

(1) 熱中症対策に係る普及啓発資料の作成

① 熱中症環境保健マニュアル

平成 17 年度よりマニュアルを作成。最新の情報及び知見を踏まえ、「熱中症環境保健マニュアル 2018」を平成 30 年 3 月に策定。

② 夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン

平成 27 年度に夏季にイベントを開催する主催者等のための熱中症対策ガイドラインを暫定的に作成、その後の改訂を経て、「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン 2020」を令和 2 年 3 月に策定。

③ リーフレット、携帯型カード等

平成 21 年度より、一般の方々の利便性等を考慮して、熱中症の予防方法や対処方法などの要点についてまとめたリーフレット等を作成。

- ・一般向けリーフレット「熱中症～ご存じですか？予防・対処法～」
- ・高齢者向けリーフレット「熱中症～思い当たることはありませんか？～」
- ・携帯型カード「熱中症予防カード」
- ・英語版リーフレット「Summer in Japan is hot and humid!/日本の熱中症」
- ・多言語 (英・中・韓) 資料「Heat Illness Measures Guideline Cards」等

④ 熱中症について学べる動画

平成 27 年度に作成した熱中症に関して学べる動画を、引き続きインターネット等で公開。



(2) (1) の普及啓発資料の配布

地方自治体、教育機関や教育委員会等の関係機関に配付。

<作成部数の実績>

	マニュアル	イベントガイドライン	リーフレット(一般)	リーフレット(高齢者)	カード	英語版リーフレット	DVD ①(一般)	DVD ②(専門)
平成 25 年度	17,000		307,000	794,000	203,000		—	—
平成 26 年度	58,000		571,500	943,000	391,500		—	—
平成 27 年度	45,400		1,005,000	1,050,000	795,000		—	—
平成 28 年度	39,200		873,800	1,119,000	864,000		29,800	28,540
平成 29 年度	31,900		855,700	1,205,000	888,800		18,200	18,100
平成 30 年度	68,000		1,295,000	1,370,000	1,481,000		9,300	9,500
令和元年度	68,000	56,000	1,402,000	1,315,000	1,310,000	129,000	11,200	11,200
令和 2 年度 (予定)	39,700	39,870	1,134,850	1,072,680	942,850	56,980	2,920	2,920

(3) その他

① ウェブサイトでの情報提供

環境省の熱中症予防情報サイト上で各資料の PDF 版を公開、スマートフォン等からも内容の閲覧が可能。

② 印刷用データの提供

リーフレット等を自治体側で印刷・配布が行えるよう、希望があった自治体に対し印刷用データを提供。

3. 熱中症対策シンポジウム

令和 2 年度は中止。

4. イベント等の実施

令和 2 年度は中止。

5. 東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組

「夏季のイベントにおける熱中症対策ガイドライン」について、令和元年夏のオリパラ・テストイベント会場内（ビーチバレー、ゴルフ等）等において実施した暑熱観測の結果を踏まえた内容や、障害者の方への対応に関する内容を盛り込み令和 2 年 3 月に改訂・公表している。 https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_gline.php

6. 熱中症予防対策ガイダンス策定事業

地方公共団体や民間事業者では創意工夫に富んだ様々な取組が進められている。このような取組の水平展開を後押しすべく、取組内容の効果や内容の検討過程での課題を明

らかにするための実証事業を公募で実施し、その結果を、施策内容を策定するためのガイドランスとして令和2年度にとりまとめる予定。令和元年度は9事業を実施。令和2年度も公募にて実証事業を実施予定。

7. 令和2年度の熱中症予防行動について

「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」の実践が求められている中、今夏は、これまでとは異なる生活環境下で迎えることとなる一方で、例年以上に熱中症にも気をつけることが重要。そこで、厚生労働省と環境省において令和2年度の熱中症予防行動の留意点をとりまとめ、別紙の事務連絡を通じて自治体に周知依頼をおこなった他、ホームページに掲載した。

各 { 都道府県
保健所設置市
特別区 } 衛生主管部（局）、熱中症予防対策担当部（局） 御中

環境省大臣官房環境保健部環境安全課
厚生労働省健康局健康課

令和2年度の熱中症予防行動について（周知依頼）

平素より熱中症対策の推進につきましては格別の御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

近年、熱中症による健康被害が数多く報告されており、気温の高い日が続くこれからの時期に備え、国民一人ひとりに対して熱中症予防の普及啓発・注意喚起を行う等、対策に万全を期すことが重要です。

今年度は更に、令和2年5月4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」が示されました。新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人ひとりが感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策をこれまで以上に取り入れた生活様式を実践することが求められています。また、熱中症により救急搬送者や医療機関を受診する方が増加した場合、新型コロナウイルス感染症の対応を行っている医療機関に負荷がかかってしまうことが考えられるため、熱中症予防を一層徹底する必要があります。

このように、今夏は、これまでとは異なる生活環境下であることから、例年以上に熱中症に気をつけることが重要です。つきましては、国民の皆様が十分な感染症予防を行いながら、熱中症予防をこれまで以上に心掛けていただけるよう、別紙1～3の内容について、関係者に周知いただきたくお願いします。

《本件照会先》

担当課室	環境省 大臣官房 環境保健部環境安全課	厚生労働省 健康局健康課地域保健室
担当者名	福嶋、石橋	十川、松川
TEL	03-5521-8261	03-3595-2190
FAX	03-5580-3596	03-3503-8563
e-mail	netsu@env.go.jp	communityhealth@mhlw.go.jp

令和2年度の熱中症予防行動の留意点について

～「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』における熱中症予防～

1 趣旨

令和2年5月4日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」が示されました。新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人ひとりが感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策を取り入れた生活様式を実践することが求められています。

このように、今夏は、これまでとは異なる生活環境下で迎えることとなりますが、一方で、例年以上に熱中症にも気をつけなければなりません。十分な感染症予防を行いながら、熱中症予防にもこれまで以上に心掛けるようにしましょう。

なお、「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」を進めていく上での熱中症のリスクについては、必ずしも科学的な知見が十分に集積されているわけではありませんが、特に心掛けていただきたい熱中症予防行動について取りまとめています。

2 熱中症予防行動の留意点

(1) 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

○ 夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。このため、屋外で人と十分な距離（少なくとも2m以上）が確保できる場合には、熱中症のリスクを考慮し、マスクをはずすようにしましょう。

※屋内運動施設での運動は、新型コロナウイルス感染症のクラスター（集団感染）のリスクが高いことから、お住まいの自治体の情報に従いましょう。

○ マスクを着用している場合には、強い負荷の作業や運動は避け、のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を心掛けるようにしましょう。また、周囲の人との距離を十分にとれる場所で、適宜、マスクをはずして休憩することも必要です。

○ 新型コロナウイルス感染症を予防するためには、冷房時でも換気扇や窓開放によって換気を確保する必要があります。この場合、室内温度が高くなるので、熱中症予防のためにエアコンの温度設定をこまめに調整しましょう。

○ 日頃の体温測定、健康チェックは、新型コロナウイルス感染症だけでなく、熱中症を予防する上でも有効です。体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養するようにしましょう。

○ 3密（密集、密接、密閉）を避けつつも、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障害者への目配り、声掛けをするようにしましょう。

(2) 従来からの熱中症予防行動の徹底

- 暑さを避けましょう。
 - 室内の温度・湿度をこまめに確認し、適切に管理しましょう。
 - 外出時は天気予報や「暑さ指数（WBGT）」を参考に、暑い日や時間帯を避け、無理のない範囲で活動しましょう（WBGTは環境省ウェブサイトで提供：<https://www.wbgt.env.go.jp/>）。
 - 涼しい服装を心掛け、外に出る際は日傘や帽子を活用しましょう。
 - 少しでも体調に異変を感じたら、涼しい場所に移動し水分を補給してください（急に暑くなった日や、久しぶりに暑い環境で身体を動かす際には特に注意が必要です。）。

- こまめに水分補給をしましょう。
 - のどが渇く前に、こまめに水分補給をしましょう（一般的に、食事以外に1日当たり1.2Lの水分の摂取が目安とされています。）。
 - 激しい運動、作業を行ったとき、多くの汗をかいたときは塩分も補給しましょう。

- 暑さに備えた体作りをしましょう。
 - 暑くなり始めの時期から適度に運動（「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で、毎日30分程度）を心掛け、身体が暑さに慣れるようにしましょう（暑熱順化）（※ただし、その際は水分補給を忘れずに、無理のない範囲で実施してください。）。

※特に、熱中症になりやすい高齢者、子ども、障害者の方々は、より注意する必要があります。周囲の方からも積極的な声掛けをお願いします。



令和2年度の 熱中症予防行動

(別紙2)

環境省
厚生労働省
令和2年5月

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

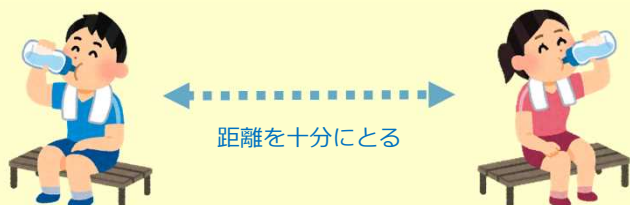
新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する



2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

3 こまめに水分補給しましょう



- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

4 日頃から健康管理をしましょう



- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪く感じた時は、無理せず自宅で静養

5 暑さに備えた体作りをしましょう



- ・暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



熱中症予防に関する資料

- 環境省ウェブサイト

環境省のウェブサイト「環境省熱中症予防情報サイト」では各種普及啓発資料や、熱中症のかかりやすさを示す「暑さ指数 (WBGT)」を公表しています。

「環境省熱中症予防情報サイト」 (<http://www.wbgt.env.go.jp/>)

検索 | 環境省 熱中症



携帯電話用 QR コード

<http://www.wbgt.env.go.jp/kt/>



スマートフォン用 QR コード

<http://www.wbgt.env.go.jp/sp/>

- 厚生労働省ウェブサイト

厚生労働省のウェブサイト「熱中症関連情報」では、熱中症予防に対する厚生労働省の取組や、職場における労働衛生対策などを掲載しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html

(参考)

- スポーツ庁ウェブサイト

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と運動・スポーツの実施における留意点等については、スポーツ庁より情報提供されています。

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/jsa_00010.html

各 （
都道府県
保健所設置市
特別区
） 熱中症予防対策担当部局 御中

環境省大臣官房環境保健部環境安全課
環境省水・大気環境局大気環境課大気生活環境室

今夏の災害発生時の熱中症対策について（周知依頼）

平素より熱中症対策の推進につきましては格別の御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。近年、熱中症による健康被害が数多く報告されており、気温の高い日が続くこれからの時期に備え、国民一人ひとりに対して熱中症予防の普及啓発・注意喚起を行う等、対策に万全を期すことが重要です。

また、例年、夏季に多くの災害が発生しているところですが、気温や湿度が高い日には、生活環境、作業内容、体調等の状況次第で被災住民、ボランティア等の方々が熱中症にかかる危険性が高まるため、十分に対策を行うことが重要です。停電等により冷房器具が使用できない状況においては一層注意が必要です。災害に備えて平時より、熱中症についての普及啓発を実施するとともに、熱中症対策に資する備品等を準備しておくことが望まれます。

さらに、今年度は、令和 2 年 5 月 4 日の新型コロナウイルス感染症対策専門家会議において「新型コロナウイルスを想定した『新しい生活様式』」が示されました。新型コロナウイルスの出現に伴い、今後は、一人ひとりが感染防止の 3 つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の対策を取り入れた生活様式を実践することが求められています。災害時においても、十分な感染症予防を行いながら、熱中症予防を実施していただくことが重要です。

以上のことから、災害への備えの一環として、別紙 1～2 の内容について、関係者（都道府県におかれては保健所設置市・特別区を除く貴管下市町村等を含む）に周知いただきますよう、お願いいたします。特に、災害時の熱中症対策については、防災担当部局ともよく連携して御対応いただきますようお願いいたします。

別紙 1：熱中症対策に関する周知の内容例

別紙 2：熱中症予防に関するウェブサイト

《本件照会先》

	熱中症対策・普及啓発資料	暑さ指数(WBGT)
担当課室	環境省 大臣官房 環境保健部環境安全課	環境省 水・大気環境局 大気環境課大気生活環境室
担当者名	福嶋、石橋、數見	石関、永田、大堀
TEL	03-5521-8261	03-5521-8300
FAX	03-5580-3596	03-3593-1049
e-mail	netsu@env.go.jp	heat@env.go.jp

熱中症対策に関する周知の内容例

1. 令和2年度の熱中症予防行動

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する



2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

3 こまめに水分補給しましょう



- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れずに

4 日頃から健康管理をしましょう



- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養

5 暑さに備えた体作りをしましょう

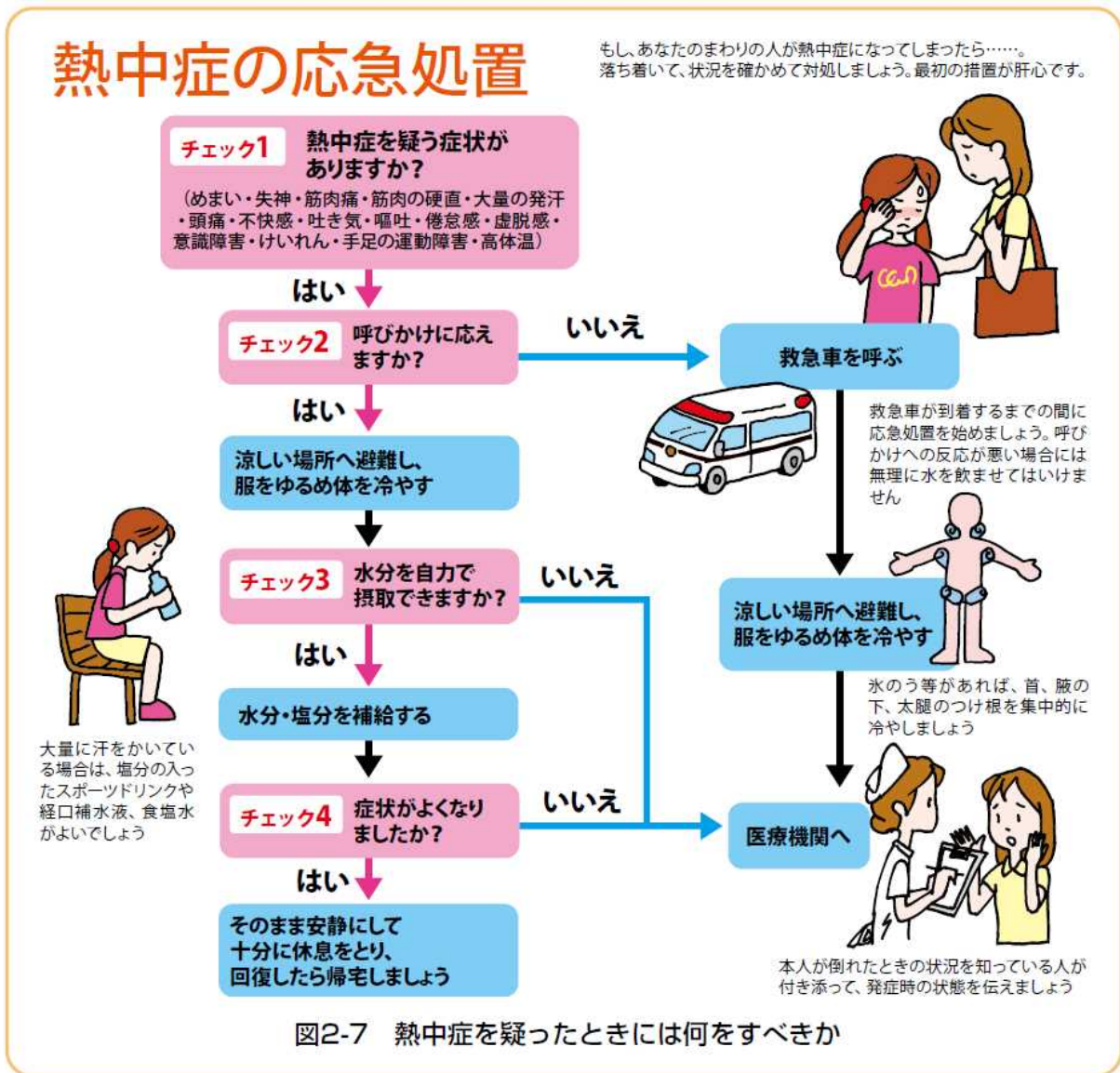


- ・暑くなり始めの時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方々は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。

(出典) 環境省・厚生労働省「令和2年度の熱中症予防行動」より

2. 熱中症が疑われるときの対応



(出典) 環境省リーフレット「熱中症 ～ご存じですか？ 予防・対処法～」

3. 作業時の注意事項（1、2に加え）

- (1) 作業管理者は作業開始前に、作業者の体調を確認し、体調が悪い者は作業を行わないようにする。
- (2) 作業管理者は日陰を確保して一定時間ごとに必ず休憩を設ける。
- (3) 作業管理者は作業者の作業状況等をこまめに確認し、体調不良が疑われる場合にはすぐに涼しい場所での休憩を指示する。
- (4) 作業者できるだけ2人以上でお互いの体調を確認しながら作業を行う。

4. 避難所等における注意事項（1、2に加え）

- (1) 市町村は、避難所における採光量を調節するとともに、扇風機やエアコン等を設置して、避難所の気温・湿度を調整する（可能であれば暑さ指数（WBGT）も測定する）。
- (2) 市町村は、避難所におけるトイレを十分に確保し、避難者等が水分補給をためらうことがないよう環境を整備する。

- (3) 市町村は、避難所における飲料を十分に確保し、避難者等にこまめな水分補給を心がけるよう呼びかけを行う。
- (4) 市町村は、高齢者、障害者等の熱中症のリスクが高い方については、ホテル・旅館等への避難についても検討する。
- (5) 避難所の気温・湿度の管理が難しい場合等は、避難者等に対して保冷剤、氷、冷たいタオル、濡れたタオル等で首や脇等の太い血管が通っているところを冷やすよう促す。
- (6) 被災や避難生活による疲労や寝不足等による体調不良、栄養不足等により熱中症のリスクが高くなる可能性があるため、避難者等に対して普段以上に体調管理を心掛けるように促す。
- (7) 熱中症が疑われる症状が出た際には、適切に医療機関を受診するようにする。

熱中症予防に関するウェブサイト

- 環境省ウェブサイト

環境省のウェブサイト「環境省熱中症予防情報サイト」では各種普及啓発資料や、熱中症のかかりやすさを示す「暑さ指数 (WBGT)」を公表しています。

「環境省熱中症予防情報サイト」(<https://www.wbgt.env.go.jp/>)

検索 | 環境省 熱中症



携帯電話用 QR コード

<https://www.wbgt.env.go.jp/kt/>



スマートフォン用 QR コード

<https://www.wbgt.env.go.jp/sp/>

- 厚生労働省ウェブサイト

厚生労働省のウェブサイト「熱中症関連情報」では、熱中症予防に対する厚生労働省の取組や、職場における労働衛生対策などを掲載しています。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html